



土砂災害に注意!

一般的に土砂災害は、降雨や融雪で地中の水分が増して地盤が緩み、さらに長雨や強雨が続いた時に発生するとされています。次のような現象を察知した場合は、直後に土砂災害が起こる可能性があります。直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、関係機関へ通報してください。

こんな「前兆現象」はありませんか？

土砂災害2～3時間前に多く見られる前兆現象



- 流水の異常な濁り

土砂災害1～2時間前に多く見られる前兆現象



- 流木が発生
- 渓流内の転石の音

土砂災害の直前に多く見られる前兆現象



- 降雨時での水位の激減
- 地鳴り・ゴーという音
- 土臭いにおい

土石流

山や川の石や土砂が、大雨などにより水と一緒にになって激しく流れ下る現象。



- 湧水量の増加
- 湧水の枯渇
- 井戸水のにごり



- 亀裂・段差の発生・拡大
- 斜面・構造物のせり出し
- 樹木の傾き、根の切れる音



地すべり

雨や雪どけ水が地下にしみこみ、断続的に斜面が滑り出す現象。

※地すべりの予測は技術的に困難であり、土砂災害警戒情報の発表対象となっていないので注意してください。



- 湧水量の増加
- 表面流発生



- 小石がばらばら落下
- 湧水の濁り
- 新たな湧水発生



がけ崩れ (急傾斜地の崩壊)

雨や雪どけ水、地震などの影響によって、急激に斜面が崩れ落ちる現象。

家の周囲の状況は？

- いつもあふれたことがない河川が氾濫している(しそう)
- いつもあふれない側溝があふれている
- いつもは冠水しない道路が冠水している
- 近くの道路でかけ崩れ(落石含む)が発生している
- 周辺地域で土砂災害が発生している
- 上記以外に周辺地域でいつも違う異常な状況が認められる

危険を感じたら早めに 「安全な場所に避難」 しましょう！

早期避難が大事です！

すぐに指定避難所への避難が不可能、または危険が迫っている場合は**危険区域外**や、**できるだけ高いところ**(自宅の2階など)に避難しましょう。



風水害・土砂災害から身を守る！

正確な情報収集と自主的避難を

テレビやラジオ、インターネットやスマホのアプリなどで最新の気象・災害情報を入手しましょう。また、町から**防災行政無線戸別受信機**より発信する「災害時の緊急放送」にも注意し、雨の降り方や浸水の状況に用心し、危険を感じたら自主的に避難をしましょう。



インターネットやアプリも活用しよう！
くわしくは P4 を参照

避難の呼びかけに注意を

災害の危険が迫った時には、役場や消防から避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合は、指示に従い速やかに避難してください。



避難する時は裸足や長靴は避け、ひもで締められる運動靴などを履きましょう！

避難する前に

あらかじめ避難所を確認しておき、避難する前にガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落としましょう。また、親戚や知人などに避難する旨を連絡しておきましょう。



二次災害を防ぐ！



車を路上に放置しない

緊急車両の妨げになりますので、堤防や道路に自動車を放置しないようにしましょう。また、車を置いて避難するときはできるだけ道路の左側に寄せて駐車しましょう。

助け合って避難を

できる限り1人での避難は避けましょう。高齢者や子どもは避難に時間がかかる場合があり、早めの避難が必要です。家族だけではなく、近所の人の避難にも協力しましょう。



車が浸水したらすぐ外へ！

水深が約30cm前後に達すると、車のエンジンが停止する可能性があり、水深と流速が増すと車ごと流される危険性もあります。車が浸水した場合は、すぐに外に出ましょう。



歩ける深さに注意！

浸水した場合、歩ける深さの目安は、ひざ下くらいまでです。水深が腰まであったり、浅くても水の流れが速い場合は無理をせず、高い場所で救助を待ちましょう。



避難に遅れたら…

万一、避難に遅れ危険が迫った時には、自宅の2階か近くの頑丈な建物のできるだけ高い所に逃げましょう。(垂直避難)ただし、利根・川合・千代田・豊田地区の大部分は、2階の床以上の高さまで浸水するおそれがあります。垂直避難はできませんので、指示に従い速やかに避難してください。

